

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームざぼん
(ユニット名)	ざぼん実
所在地 (県・市町村名)	熊本県八代市鏡町
記入者名 (管理者)	前田鈴代
記入日	平成19 年 8 月 25 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の高齢化、重度化に押され自立支援より、安全・安楽を追究し続けてきた感が強いが、同時に、4年目のざぼんとしての、有様を全職員で摸写し続け、又、職員に加え地域社会にも分かりやすい平易な表現の理念に変更した		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送りや カンファレンスは勿論、日常的に、共に「今を生きる」を、意識した会話に心がけている。又、採用面接や入職時は しっかりと説明している	○	職員一人一人が自らの介護場面を振り返る中でのトレーニングを実践していく
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族には、入居前、見学、検討の時期から家族会、各種行事の都度理念に触れ確認している。地域の人々に対しては、近隣所の一部に止まっており十分な説明は出来ていない	○	地域社会の活動への参加や 地区組長さん 民生員の力を借りたり、ざぼん便りの発行を通じた実践を行っていく
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	子供たちの通学時や道路に面した畑からの挨拶程度で日常的な付き合いに至ってない	○	近所の農家から 野菜や果物を頂くばかりで、ざぼんの菜園での収穫物を届けたり、お互い様の関係づくりに努める
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	すぐ近くの小学生が、高齢者との交流を求め尋ねてくれたり、そこで学んだ事の発表に、入居者を学校へ招待してくれたり、又、中学生も総合学習の一環として来てくれ交流は盛んになりつつある。又9月より縁側事業の一環として保育園との交流も始まる。老人会等地域活動への参加を運営推進会議通し求めているが、まだ実施に至ってない	○	左記の充実徹底

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	例年地域の高校(福祉課程)生の実習を積極的に受け入れ、本年は、卒業生が望み入職した。地域の啓発の場での貢献について、運営推進会議を通し申し入れているが実践に至っていない	○	社協を通じ地元の生き生きサロン等への、支え支えられる関係づくりへの橋渡しを依頼している
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年の自己評価後すぐに自己評価は「サービス評価ガイドブック」の着眼点やヒントを参考にしながら、毎日時間を決め一項目づつ全員で取り組み改善出来る事から実践している	○	年間を通し継続した見直しを行っている
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	この一年間は運営推進会議の意図について委員の方に理解して頂く事に力を注いだ結果、地域との連携や行事への積極的な意見を頂き実施につなげている。中断していた餅つきを復活し入居者の喜びにつながっている	○	短時間の会議を有意義なものとする為、テーマを設定したり、委員の拡大を検討する
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入所退所の連絡や、介護保険更新時の機会に情報交換と助言を得るよう発信しているが、積極的関係づくりに至ってない	○	定期的な入居者状況の報告に加え行事や学習会の実施状況について成果を報告し、もう一歩進んだ連携を目指していく
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修に参加したが、全職員への普及教育には至っていない。「地域福祉権利擁護事業」については未学習である	○	GHとして権利擁護に関する制度の理解は必要であり研修会や勉強会で基本的な知識を学んでいく
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が常に「虐待防止」の意義を維持する事を狙い「虐待防止、権利擁護研究事業」について定例会で確認しあった。トイレの壁に掲示している	○	職員間で日常のケアが虐待行為に抵触しないか、を含め話しあって環境づくりを大事にしている

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時及び終末期介護について、疑問点をなくし十分な納得を得られる迄、時間をかけ説明し同意を得ている。面倒だと嫌がられるご家族にたいしてもしている</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>行きたい所や食べたいもの等日常的に、入居者の言動から、真の思いを掌握することに努めている</p>	<p>○ 入居者との寄り合いを1～2ヶ月に一回開催し思いや意見を伝えてもらえる機会を作る</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>緊急時を除いては「個々の連絡ノート」より、来訪の機会に説明している。特に健康状況については、些細な変化についても早期の相談と報告に徹している。但し、定期訪問の得られにくい家族に対しては、電話による報告に止まっている。金銭管理は、小口預かり帳に記入し確認⑩を頂いている</p>	<p>○ 定期訪問の機会が少ない家族に対して、状況の変化にかかわらず手紙や写真による暮らしぶりの報告を実践していく</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に入ってすぐの壁に第三者相談窓口のポスターを貼付し、又玄関棚に施設長への直行便入れを設置している。家族会や年間行事の機会には、どんな些細な事でも相談して頂けるよう繰り返しお願いしている。家族会では、まず、家族間のみのお話の時間を設け代表者から、その結果を伝えて頂いている</p>	<p>○ 日常の訪問時においても 家族等からの積極的意見が得られるような場面づくり をしていく 喫茶でも楽しめる様なコーナの設置を検討</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>合同の定例会、月1回では業務上の連絡事項や研修報告に終始し、十分な管理者と職員の意見交換には至っていない現状にある。毎日短時間でも勉強会を実施し、又、重要事項は、事前に主任会で話し合い職員の合意に基づき決定している</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者状況や行事に対応した余裕のある職員を確保しており、又、 職員の急病等へも対応できる勤務体制をとっている</p>	<p>○ さらに入居者の、季節や時間帯に合わせての勤務を提供するために、「勤務時間」の検討をする</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>入居者の状況(入退居)と職員の離職等による職員状況により、介護の質のバランスや人間関係等を考慮しての、必要不可欠の交替人事の他はユニット毎に固定している</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	正職・パート、共に差なくホーム内での勉強会、ケアカンファ及び部外研修へも積極的に参加し全職員が共有する為、定例会での研修報告(発表)で普及教育も徹底している。但し、個々が実務の中での学びを通しての相互学習の意識が薄い	○ 職員が職員を育てる、又 個々が学ぶと言う意識を、どう、育成していくか研究し続ける
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH八代部会の実施する研修(毎月)に職員は、積極的に参加し、認知症介護の勉強は無論、他ホーム職員との交流を深め、ホーム間同士の協働に広がっている	○ 同じGH間の「交換研修」の実践について検討
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	GH八代部会への定期参加を通して得る他事業所との交流は、気分転換を図る機会となっている 職員のための休憩時間、場所の確保はない	○ 職員の声 (職員が入居者と離れた場所で休憩する事がストレス軽減に繋がるのか)を聞き、対応策について検討する
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	パートを含む全職員の健康診断を年2回実施し事後処理についても指導、助言をおこなっている。年間を通して介護福祉士、ケアマネの資格取得に向け計画的学習の勧奨を行っている	○ 職員の自己管理を充実、徹底させるための職場内健康相談、健康教育の実施
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談来所は本人を除く代理人(家族)のみの場合が多いが、必ず自宅や入院先へ本人の思いや心身の状態について把握し、よい関係づくりにつなげるよう努めている	左記の徹底
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	まず、ご家族の立場を明確にし相談の事案をはっきりと表出して頂き、ホーム側もGHの目指すもの、考え方についてしつかりと説明した上での相互理解によって信頼関係を築くように心がけている	左記の徹底

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時は本人やご家族の、今、最も困っておられる事と、その緊急性等について掌握すると共に、他のサービス機関の情報も提案しながら適切な対応に繋げるように努めている	○	管理者不在時の対応の充実の為初期対応のマニュアル化の検討
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の心身の状況や家族の事情にもよるが、ホームや入居者の人達との触れ合いを経験して頂く事が、以後の安定した生活につながる事を話合うようにしている		左記の徹底
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人(入居者)から教えられ 諭されている事実が多くあるのに、職員は気づかないで支援する側になっている 「～して下さい」 命令調の言葉が飛び交っている場面がある	○	お互いに家族の一員としての役割を荷える同志としての関係づくりに努める
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居相談の時から本人だけでなく ご家族もごぼんの家族になって、共に本人を支えあう関係となる必要性を伝え続けている。しかし全職員の理解は十分でない		左記の徹底
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	毎日決まった時間に訪問して、話しかけたり、マッサージしたり、素人ながらホームでカットしてあげたりと、本人と家族とのより良い関係づくりが継続していくように努めている		継続
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居相談時より本主旨について、ご家族に理解して頂く様働きかけ、馴染みの知人や行きつけの美容院/理容院へ入居者も継続した交流が出来る 但し一度訪問して頂いた友人の継続訪問が十分に出来ない	○	本人を支えてくれていた地域の人々との関係が途切れないような職員の働きかけを強化する
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者によっては特定な人に対し精神的不安定の為不穏となる事を避けるよう、お茶や食事時の配席など考慮し、孤立してしまわれないように支援している		左記の徹底

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	重度化による入院や特老入居による契約終了の場合には、お見舞や面会に行くなど出来ているが、定期的フォローや継続的相談体制は、取れていない	○	退居の際、退居後の相談や定期的フォローの要望について確認とる
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全職員が本人の代弁者であるとの認識を持ち、本人の視点に立って取り組んでいる。あらゆる機会をとらえて代理人や知人、友人等の関係者から本人の真意(誰と・どこで・どのように・暮らしたい)を掌握できるようにアンテナを広げている	○	本人や家族にとって、その人らしい暮らしを続ける為のアセスメントを掘り下げていく
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これから本人と暮らさせて頂く上でケアに活かす為、に掌握したが良い内容について、本人や家族との信頼関係を築きながら捉えていくように努める		左記の徹底
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	昼夜を通し本人にとっての生活のリズム、暮らしぶりについて把握するようにしているが十分でない	○	出来る、出来ない→どう支援すればできるか →どう支援すればわかるかの把握に力を入れる
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の思い、ご家族の意向をしっかりと受け止め、共に作る介護計画との認識を持っている。定期的ケアカンファレンスや日々のミーティングの結果をプランに活かしているが定期的モニタリングが不十分である	○	左記の徹底
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の状態の変化に応じ実情に即したプランの見直しを行っているが「担当者会議の実施」が十分でない		左記の徹底

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録は、本人の語り・行動・表情等とケアの実施欄に区分し、健康チェック表にはバイタル・服薬・食事量・排泄・保清等の欄を設け全職員が勤務に入る前に確認することを義務付け、責任ある勤務につなげるよう努めているが職員間の情報の共有は十分でない		左記の徹底
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急受診の他定期受診についても、ご家族の状況に応じた柔軟な対応行っている。又 日頃より入居者の健康管理に注意し、医療連携体制を活かしての「入院に至らない」及び万一入院しても「早期退院」に向け病院と連携し、支援に力を入れている		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティアに対し一方的な協力依頼を地道に行っている程度で、地域資源との協働とまでには至っていない	○	普段からの資源拡大への努力と左記の徹底
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の心身の状態や家族の要望によって理容士さんの出張サービスを受けている程度	○	本人や家族にとって、その人らしい暮らしを続ける為のアセスメントを掘り下げていく。ご家族の要望や必要性についての把握とGHとしての対応の検討
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	事業所の運営状況、対応困難な事項等など明確な相談先との判断なしに、よろず相談的に受け入れて貰っている段階	○	協働すべき内容(項目)の把握
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人とご家族の希望される医療機関へ基本的には、家族同行、ホームとしての必要時、又は、ご家族が不可能な場合、職員が対応している。緊急時の対応としては、救急車で搬送やTELでの相談もできる協力医との緊密な連携がとれている		左記の継続

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		左記の徹底
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		継続
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	重症化や終末期となる前段階からの、対応の手順作り(本人、家族、主治医等の話し合い)
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	入居者の状態変化に応じてのチーム間の検討会の充実
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		左記の徹底

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者の立場からは、入居者の尊厳を守る為にざぼん全体に対し日常的な確認と改善に向けての指導を強化しているが十分でない	○ 「尊厳、誇り」を尊重する対応についての学習の継続
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	意思表示が低下してきている入居者に対し表情からの読み取りや「意図的」な思いの引き出しが出来ていない	○ 入居者の関心事や希望、思考の話題を日常的に取り入れる(1日の過ごし方の一項目とする)
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活としての「一日の暮らし方」を基礎として、その日の体調やペースに沿った暮らしの支援に努めている。但し 他入居者や職員状況、都合によって個別性のある生活に至らない事も多い	○ 入居者の関心事や希望、思考の話題を日常的に取り入れる(1日の過ごし方の一項目とする) 運営上の課題でもある
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	鏡を見ながら毎朝洋服を1～2回とり変えたりされるのを、そっと見守り、お洒落心が継続するよう支援している	○ 職員のお膳立てや、さりげない手直しの支援の充実
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人一人の出来る力(もやしの根切、大根人参の皮むき)を活かし、準備や後片付けを行っている。但し、献立に添って材料の選定、味付け、盛り付けと食事一連の作業を通しての関わりが十分でない	○ ただ 皮むきのみと言う作業ではなく一連を通しての関わりによって、その後の楽しい食事につなげていく
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好は入居の相談時から時間や場所の限定はあっても、状況を見ながら楽しんで預ける事を説明してはいるが、実際にはお酒もタバコを楽しまれる方はおられない。コーヒーをおやつやの時間等に楽しまれたりする事が多い	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握、可能な限り声かけにも個々に工夫し、トイレ誘導し、オムツでなくトイレでの排泄を促すようにしている。排泄の時間と量、身体状況から、日中はリハパン夜間はオムツと工夫している	○	基本的な生活パターンを早期に掌握し、トイレでの排泄の習慣化を強化していく
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	心身に無理のない一日置き程度の入浴を目安としながら、原則としては、一人一人の希望の時間帯や方法でくつろいだ入浴を支援している	○	入浴による羞恥心や不安、恐怖心、又負担感等を軽減する諸々の工夫や配慮の学習の強化
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	過去の生活習慣を踏まえて体調と相談しながら、かつ、生活リズムを保てるように休憩の場所や姿勢、時間等考慮している。又、寝付けない、すぐ起きられる時には、無理せず暖かい飲み物の提供やおしゃべり等、時々状況に併せた対応をしている		左記の徹底
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	他に楽しみが見出せない入居者が夜市で買ってきた金魚のお世話を、もう一年半もせせせと行っている。居室のお掃除、食事作り、季節のおはぎや盆団子など、昔ながらの作り方を教えてもらっている	○	全入居者に対して個々の対応が出来るよう、地道な支援を強化していく
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時には、お金の所持、金額、用途等について、ご家族とよく話し合い「小銭でも手元に持っている」御賽銭や買い物に出掛けての、ジュース1本でも自ら支払う事を、出来る人については継続して頂けるように支援している		左記の徹底
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブの機会は、日常的には出来ていない。毎日の食材買出しや日用品の買い物で、行き先固定化しやすい状況ではあるが、屋内から出て、外気・日光に触れ心身の安定・意欲・共に過ごす時間につなげる事を大切にしている	○	短時間でも戸外に出る日課の見直し
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年1回御家族の同併を得ての、バス旅行のみである。他は、何かの機会を待っている状況にとどまっている	○	入居者の思いを実現させる為の職員間の積極的検討

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様から職員に対するTEL であっても取次ぎ、少しでもコンタクトをとって頂くように受話器を耳に当てる等の対応をしている。又「電話して下さい」の訴え時も必ず取り次いでいる	○	一言のTEL で、安心して貰えるので、家族にも常々繰り返し協力の依頼をまめにしていく
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	尋ねて来られる方が望まれる場所で、自由に面会して頂いている。改めて、訪問者用のスペースを設けたり、湯茶セット等用意しておくことが十分とは言えない	○	フロアに訪問者用のスペースを設けられる広さがある為、小テーブルに湯茶セット等を用意して置くことの検討
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定例会時に権利擁護や虐待防止について、改めて読み合わせをし共通の意識を持つ事が出来た。介護保険指定基準において、持ち出し禁止の対象となる具体的な行為の認識が十分ではない	○	「禁止の対象となる具体的な行為」と、日常のケアを振り返っての照合を繰り返す事を通して全職員が自己点検するシステムを作っていく
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	可能な限り一人一人の外出の癖を掌握し、さりげない声かけで対応しているが、チャイムに頼ってしまう事もある。近所の駆け込みステーションや近隣にも連絡してもらえる関係(緊急連絡網)を築いている	○	今日、入居者は、どう過ごしたいのか、本人の思いを読み取り 察知し見守りや職員間の連携プレーを強化していく
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はチームでの声のかけ合いをして、常に誰かの「目」が見守り すぐに、対応出来る位置関係を確保している。又夜間も時間帯毎の入居者状況に合わせ、わずかな動きもキャッチ出来る居場所を工夫している		左記の徹底
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	台所の包丁や鋏は使用毎に定位置に収納、救急箱・薬・消毒薬類は、保管場所を定め入居者状況に合わせ管理している		左記の徹底
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	誤嚥や転倒(例) 離苑のリスクを予測し対策について職員間で共有している。又職員間の共通認識を図る為に、ヒヤリハットを躊躇なく記録するように、しているが十分な対策に至っていない	○	ヒヤリハットや、事故が発生した場合速やかに事故原因を追究し、再発防止に徹する為、当日の勤務員間での対策について検討する

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	昨年に続き消防署の出張を得て、救命救急の技術演練を受講し少しずつ自信を付け始めている	○	マニュアルの見直し、整備の充実 年1回以上は計画していく
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の内1回は、地元の消防署、消防団、及び緊急時における連絡網として、協力を得ている(消防計画の中に明示)地域住民にも協力をお願いしているが、効果的訓練に苦慮している	○	訓練や地元の協力、備品等の準備を行っていても 夜勤帯の対応にご家族の不安は、払触しきれない。丁寧な訓練を継続実施していく
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	一人一人に起こりえるリスクと、その人らしい暮らしとのギャップとの関係について ご家族と定期的に話し合いながら対応策を決めている		左記の徹底
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	「何時もと変わらない」事の確認をリーダーはじめ、スタッフ全員が把握し「異常」の早期発見と早期対応(受診・相談)に繋がっている	○	左記の行動パターン化の徹底
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効用と副作用及び一人一人の服用法について、全職員は承知しており わずかな体調の変化をバイタルチェックに繋がっている		左記の徹底
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	乳製品・繊維の多い食品・水分・摂取に工夫しているが、自然排便に至らず、下剤使用へ頼り排便コントロールが十分でない	○	朝食後にトイレに座る、ゆっくりと落ち着いてトイレに座る。規則正しい排便習慣と、腸のぜん動運動を促す為の、適度な運動等自然排便を目指す基本的な事を実践していく
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	喫食前の含嗽と食後の歯磨きは、習慣化出来た。口腔ケアの重要性を理解し、ホーム内や八代部会での研修に参加している。協力医の協力を得て予防的検診を重視し、その人にあった口腔ケア専用ブラシを積極的に利用している	○	口腔ケア時の安定した椅子や鏡の準備、ケア用品の清潔管理の徹底

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士作成の献立を基礎とした食事づくり 食事量は把握しているが、入居者全員の水分摂取量は記録していない	○	一人一人の湯のみ一杯分の量を換算した おおまかな量を把握し記録していく。 最後まで美味しく食べられる為の基礎的な事を全職員が学習し知識を高める為の研修を計画中
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	嗽と手洗いの励行徹底を入居者、職員共に心がけ実践している。例年、入居者・全職員は、インフルエンザ予防接種を受けている	○	左記の徹底による予防の徹底
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は一日分ずつ毎日買物し、冷蔵庫内もすっきりさせ残り物は、翌日迄に処分する。包丁やまな板は、夜勤者で殺菌漂白する等取り決めている	○	冷蔵庫の開閉や料理時間等、温度管理等の衛生管理の徹底
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にいつでも寛げる2～3人腰掛のベンチやテーブルを設置し、歌を大声で唄ったりお茶したりして楽しんでいる		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関から廊下・食堂・居間・台所がワンフロアの造りとなっていて、ホームの全体像がつかみやすく食事作り時の美味しい匂いがしたりして、安心感が得られる		左記の継続、徹底
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の居場所として、又、生活感としては工夫と配慮に欠ける面もある 皆とは、少し離れたフロアの一角に一人掛けのソファを配置し、そこが、最もその人にとって落ち着ける居場所となっている		左記の継続

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	防災としてのカーテン等への配慮はあるが、入居者個々の馴染みの品は、意図を説明しても持ち込まれる事につながっていない	○	地道な説明の継続、職員による工夫の徹底
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室・フロア・浴室は常に換気扇は、ONとし、トイレ(ポータブル)は消臭剤の使用で臭いに配慮している 但し、入居者と職員の温度感の格差があり適切な温度管理が出来ていない	○	入居者と職員間の感覚の誤差を縮小する知恵、工夫の検討
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内全周にわたる手すり、広々とした浴室の手すりは、一人一人の日常生活動作訓練や立位訓練として役立っている。個々の状態に合わせて、車椅子のアームレスト・フットレストを上げ自走しやすい高さ等を調整し、自立支援へつなげるように工夫している		左記の徹底
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	カンファレンスをし問題点を検討し、統一ケアを行い利用者の混乱・失敗を1つでも減らすようにしているが、まだ十分でない		左記の徹底
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にベンチを常置し朝夕の外気浴、気分転換、日向ぼっこを日常的に楽しみ、又 活動できる環境づくりに力を入れている。(車椅子の方も) 毎週日曜日は、緑や土に触れる日として決め隣接の畑に出かけ、併せて 収穫の喜び、楽しみも味わっている		左記の継続

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

1. 健康管理

- 【1】 口腔保清と食前の含嗽・健口体操・食後の口腔ケアの徹底誤嚥防止
- 【2】 排便コントロール、水分チェック、献立の工夫、トイレでの排泄の習慣徹底
- 【3】 日常生活動作の充実、生活リハビリと手足の屈伸、下肢UPの習慣（個人個人に応じた取組み）
- 【4】 保健衛生及び救命処置の知識、技術UPと医療機関との連携、異常時の報告及び緊急対応、医療機関とのいつでも相談できる体制作り

2. 家族及び地域との交流、連携の強化

職員は、入居者と同様にご家族との関係を重視し、情報の共有に努め、信頼関係の強化に取り組んでいる。又、地域の小中学校の総合学習の一環として及び、各種ボランティア団体との交流を大切に入居者にとっての楽しみ、喜びの機会を多く得れるようざぼんとして貢献していく

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームざぼん
(ユニット名)	ざぼんの花
所在地 (県・市町村名)	八代市鏡町両出1327-6
記入者名 (管理者)	前田 鈴代
記入日	平成 19 年 8 月 23 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	職員一人ひとりが自らの介護場面を振り返る中でのイメージトレーニングを実践していく。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	地域社会の活動への参加やざぼん便りの発行を通じた実践を行っていく。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	近所の農家から野菜や果物を頂くばかりで、ざぼんの菜園収穫物を届けるなど、お互い様の関係づくりに努める。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	左記の継続と充実

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	例年、地域の高校生(福祉過程)の実習を積極的に受け入れ、本年は卒業生が望み入職した。地域の啓発の場での貢献について運営推進会議を通し申し入れているが、実践に至っていない。	○	社協を通じ、地域の生き生きサロン等への支え支えられる関係作りへの橋渡しを依頼している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年の評価後すぐに、自己評価は「サービス評価ガイドブック」の着眼点やヒントを参考にしながら毎日時間を定め1項目づつ取り組み改善できる事から実践している。	○	年間を通し、継続した見直しを行っている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	この1年間は運営推進会議の意図について委員の方に理解して頂く事に力を注いだ結果、地域との連携や行事への積極的意見を頂き実施につなげている。中断していた餅つきを復活し入居者の喜びにつながった。	○	短時間の会議を有意義なものとする為、テーマを選定したり、委員の拡大を検討する。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入所、退所の連絡や、介護保険更新時の機会に情報交換と助言を得るよう発信しているが積極的関係作りに至っていない。	○	定期的な入居者状況の報告に加え行事や学習会の実施状況についても成果を報告しもう一步進んだ連携を目指していく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修に参加し、必要ケースについて個々の検討を行っているが、全職員への普及教育には至っていない。「地域福祉権利擁護事業」については未学習。	○	GHとして権利擁護に関する制度の理解は必須であり研修会や勉強会で基本的知識を身につけるようにする。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が常に「虐待防止」の意識を維持する事をねらい「虐待防止、権利擁護研究事業」について定例会で確認しあった。 トイレの壁に掲示している。	○	職員間で日常のケアが虐待行為に抵触しないかを含め常に話し合える職場の環境づくりを大事にしていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時及び終末期介護について疑問点をなくし、十分な納得を得られるまで時間をかけ説明し、同意を得ている。(面倒だと嫌がられるご家族に対しても)	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に入居者の言動から真の思いを掌握するよう努めている。「瞬間」を大切に入居者の「話」にじっくり真正面から向き合っている。	○ 入居者との寄り合いを1～2ヶ月に1回開催し、思いや意見を伝えてもらえる機会をつくるようにする。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	急病、緊急時を除いては「個々の連絡ノート」に記入しておく、来訪の機会に説明している。特に健康状態については些細な変化についても早期の相談と報告に徹している。ただ、定期訪問の得られないご家族に対しては電話による報告に止まっている。金銭管理は小口預かり帳に記入し確認印を頂いている。	○ 定期訪問の機会が少ない家族に対して、状況の変化に関わらず手紙や写真による暮らしぶりの報告を実践していく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関棚に施設長への直行便入れを整備している。家族会や年間行事の機会にはどんな些細な事でも相談して頂けるよう繰り返しお願いしている。家族会では、まず、家族間のみ話し合いの時間を設け代表者からその結果を伝えて頂いている。	○ 日常の訪問時においても家族等からの積極的意見が得られるような場面作り、喫茶でも楽しめるようなコーナーの設置を検討していく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	合同の定例会1回では業務上の連絡事項や研修報告に終了し、十分な管理者と職員の意見交換には至っていない現状にある。毎日短時間でも勉強会を実施し、又、重要事項は事前に主任会同で話し合い職員の合意に基づき決定している。	左記の徹底
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者状況や行事に対応した余裕のある人員を確保している、又、職員の急病等へも対応できる勤務体制をとっている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者の状況(入退居)と職員の離職等による職員状況により介護の質のバランスや人間関係等を考慮しての必要不可欠の2棟間の交代人事の他はユニット毎に固定している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	正職、パート共に差なくホーム内での勉強会、ケアカンファレンス及び郊外研修へも積極的に参加し、全職員が共有する為定例会での研修報告(発表)で普及教育を徹底している。ただ、個々が実務の中での学びを通しての相互学習の意識が低い	○ 職員が職員を育てる、又、個々が学ぶという意識をどう育成していくか検討
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH八代部会の実施する研修(毎月)に職員は積極的に参加し、認知症介護の勉強は勿論、他ホーム職員との交流を深めホーム間同士の協働に広がっている。	○ 同じGH間の「交換研修」の実践について検討。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	GH八代部会への定期的参加を通して得る他事業所との交流は気分転換を図る機会となっている。 職員のみの休憩時間、場所の確保はない。	○ 職員の声 (職員が入居者と離れた場所で休憩する事が職員のストレス軽減につながるのか) を聞き対応策について検討する。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	就労規則を守られ、パートも含む全職員の健康診断を年2回確実に実施し、事後処置についても指導、助言を行っている。 又、年間を通して介護福祉士、ケアマネの資格取得に向け計画的学習の勧奨を行っている。	職員の自己管理を充実、徹底させる為の職場内健康相談、健康教育の実施を継続・充実。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談来所は、本人を除く代理人(家族)のみの場合が多いが必ず、入院先や自宅へ本人を訪ね、本人の思いや心身の状態について把握し、良い関係作りにつなげるよう努めている。	左記の徹底
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	まず、ご家族の立場を明確にし、相談の事案をはっきりと表出して頂きホーム側もGHの目指す考え方についてしっかりと説明した上での相互理解によって、信頼関係を築くように心がけている。	左記の徹底

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時は本人やご家族の今、最も不安で困っておられる事とその緊急性等について把握すると共に他のサービス機関の情報も提案しながら適切な対応につなげるよう努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の心身の状況や、家族の事情にもよるが、ホームや入居者の人達との触れ合いを経験して頂く事が以後の安定した生活につながることを話し合うようにしている。		左記の徹底
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の気分に合わせ、声をかけたり、そっとしておいたりして一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、明るく生活できる関係づくりに努めている。また、本人からの思いの言葉をしっかり受け止め対応するよう努めている。	○	左記の徹底
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居相談時から、本人だけでなく、ご家族もごぼんの家族になって共に本人を支え合う関係となる必要性を伝え続けている。しかし、全職員の理解は十分でない。	○	左記の徹底
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	毎日決まった時間に訪問して話しかけ、マッサージをしたり、素人ながら、ホームでカットしてあげたりと共に家族と職員の良い関係が築けるよう努めている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居相談時点より、本主旨について、ご家族に理解して頂くよう働きかけ、馴染みの知人や、行きつけの美容院(理容)へ入居後も継続した交流ができています。ただ、一度訪問して頂いた友人の継続訪問への配慮が十分にできていない。	○	本人を支えてくれていた地域の人々との関係が途切れないような職員の働きかけを強化する
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お世話役の入居者に、職員に代わり、うまく導入してもらうなど、入居者間の円滑な関係作りの為調整役となっている。		左記の徹底

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	重症化による入院や特老入居による契約終了の場合にはお見舞いや面会に行くなどできているが、定期的フォローや継続的相談体制はとれていない。	○	退居の際退居後の相談や定期フォローの要望について確認をとる。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全職員が本人の代弁者であるとの認識を持ち本人の視点に立って取り組んでいる。あらゆる機会を捉えて代理人や知人、友人等から本人の真意(誰とどこでどのように暮らしたい)を掌握できるよう努めている。	○	本人や家族にとってその人らしい暮らしを続けるためのアセスメントを掘り下げていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これから本人と暮らさせていただく上でケアに活かすために掌握した方がよい内容について、本人や家族との信頼関係を築きながら捉えていくよう努めている。		左記の徹底
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	昼夜を通し、本人にとっての生活のリズム、暮らし振りについて、把握するようにしているが不十分。	○	できる、できない→どう支援すればできるか、分かるかの検討。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の思い、ご家族の意向をしっかりと受け止め、共に作る介護計画との認識を持っている。定期的ケアカンファレンスや日々のミーティングの結果をプランに活かしているが定期的モニタリングが不十分。		左記の徹底
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々、状態の変化に応じ、実情に即したプランの見直しを行ってはいるが、「担当者会議」の実施が十分でない。		左記の徹底

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録(本人の語り・行動・表情等とケアの実施欄に区分)と健康チェック表(バイタル・服薬・食事量・排泄・保清等欄)を全職員が勤務に入る前に確認することを義務付け、責任ある勤務につなげるよう努めてはいるが、職員間の情報の共有は十分でない。	○	左記の徹底
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急受診の他、定期受診についても、ご家族の状況に応じた柔軟な対応を行っている。又日頃より入居者の健康管理に注意し、医療連携体制を活かしての「入院に至らない」及び万一入院しても「早期退院」に向け、病院と連携し、支援に力を入れている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティアに対し、一方的な協力依頼を地道に随時行っている程度で、地域資源との協働とまでには至っていない。	○	普段からの資源の活用拡大への努力と左記の充実。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の心身状態やご家族の要望によって理容師さんの出張サービスを受けている程度。	○	本人やご家族の要望と必要性についての把握と、G・Hとしての対応の検討。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	事業所の運営状況、対応困難な事項等など、明確な相談先との判断なしに、「よろず相談」的に受け入れてもらっている段階。	○	協働すべき具体的内容(項目)の挙措から。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人とご家族の希望される医療機関へ基本的にはご家族同行、ホームとしての必要時又はご家族が不可能な場合、当然職員が対応している。緊急時の対応としては日頃より救急車での搬送やTEL相談もできる協力医との連携ができています。		継続

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>常に相談できるかかりつけ医との関係を築いており、専門医への紹介を経て、適切な専門治療、指示、助言を受けている。</p>	<p>継続</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>看護師を保健担当に任命し、入居者の健康管理や医療面での指導や助言及び相談への対応をしっかりと行っている。</p>	<p>継続</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院に際しては、当初より担当医との三者一体としての関係を構築するよう働きかけ、可能な限り速やかな退院支援に結び付けている。</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居当初(1ヶ月内)から、症状増悪や終末期の対応について、ご家族の意向及びホーム側の限界について等話し合い、文書での同意を得るようにしている。終末期の対応指針も定め職員間での勉強会も行っている。</p>	<p>○ 重症化や終末期となる前段階からの対応の手順づくり(本人、家族、主治医との話し合い)。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>家族の意向を確認し、主治医との連携を重視し対応しているが「本人」の意向を踏まえての、職員間の支えが十分でない。</p>	<p>○ 入居者の状態変化に応じてのチーム間の検討会の充実。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>すでに自宅から老健施設や病院を経由しての入居となられる事が多く、職員間では日頃から環境の変化が及ぼすダメージを少しでも防ぐための情報交換に気配りしている。又GHから転居される場合は、ざぼんでの暮らしぶりについて、詳細なサマリーと以後の連絡の継続性を伝えている。</p>	<p>左記の徹底</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者の立場からは、入居者の尊厳を守るためにざぼん全体に対し、日常的な確認と、改善に向けての指導を強化しているが十分とはいえない。	○ 「尊厳」「誇り」を尊重する対応についての学習の継続。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	意思表示が低下してきている入居者に対し、表情からの読み取りや「意図的」な思いの引き出しができていない。	○ 入居者の関心ごとや希望、嗜好の話題を日常的に取り入れる。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活としての「一日の暮らし方」を基礎として、その日の体調やペースに添った暮らしの支援に努めている。但し他入居者や職員の状況、都合によって個別性のある生活に至らない事も多い。	左記の充実
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	美容師さんと連携しあい、一律の刈上げ止め、好みの髪形をお願いしている。	○ 職員のお膳立てや、さりげない手直しの支援の充実。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人ひとりのできる力(もやしの根切り、大根、人参の皮むき、缶詰開け)を活かし準備や後片付けを一緒に行っている。但し献立に添って、材料の選定、味付け、盛り付けと食事一連の作業を通しての関わりが十分でない。	○ ただ皮むきのみという一作業ではなく、一連を通しての関わりによって、その後の楽しい、うれしい食事につなげていく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好は、入居の相談時から時間や場所の限定はあっても、状況を見ながら楽しんで頂ける事を、説明してはいるが実際にはお酒もタバコも楽しめる方はおられない。	対象者の状況に合わせて支援していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	職員間の中で排泄パターンを把握し、入居者一人一人に合わせて誘導し、失敗なく排泄できるように支援している。万一失敗があっても、速やかに本人の羞恥心を尊重し、対応、支援している。		左記の徹底
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を嫌がられる又は入浴の理解が得られない入居者への対応の工夫にチームプレイで試みてはいるがなかなか成果が得られず苦慮しているところ。	○	入浴による羞恥心や不安、恐怖心、又負担感等を軽減する諸々の工夫や配慮の学習の強化。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	過去の生活習慣を踏まえて体調と相談しながら、かつ生活のリズムを保てるように休息の場所や姿勢、時間など考慮している。又寝付けない、すぐ起きられる時には無理せず、温かい飲み物の提供やおしゃべりをしたり、時々状況に併せた支援に努めている。		左記の徹底
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	居室の掃除、食事作り、季節のおはぎや盆だごなど昔ながらの作り方を教えてもらったりして張り合いや喜びのある日々を過ごせるような支援に努めている。	○	全入居者に対して個々の対応ができるよう地道な支援を強化していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時には、お金の所持、金額、用途等についてご家族とよく話し合い「小銭でも手元に持っている」、お賽銭や買い物に出かけてのジュース一本でも自ら支払うことができる人については継続して頂けるよう支援している。	○	左記の徹底
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブの機会は日常的にはできていない。毎日の食材買出しや、日用品の買い物で先々が固定化しやすい状況ではあるが、玄関を出て外気日光に触れ、心身の活性化につながる事を大切にしている。	○	短時間でも戸外に出る日課の見直し。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年一回ご家族の同伴を得てのバス旅行のみで他は何かの機会を待っている状況。	○	入居者の思いを実現させるための職員間の積極的検討の強化。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	TELは子機から本人の部屋でゆっくり話せるよう配慮している。	○	年賀状や暑中見舞いが職員との共同作業で出せるようにしていく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪ねて来られた方が望まれる場所(居室、フロアの一角、食堂テーブル等)で自由に面会して頂いているが、改めて訪問者用のスペースを設けたり、湯茶セット等用意しておくなど必ずしも十分とは言えない。	○	フロアに訪問者のスペースを設けられる広さがある為改めて準備しなくても小机や湯茶セットなども用意しておく事の検討。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定例会時に、権利擁護や、虐待防止について、改めて読み合わせをし、共通の認識を持つことができた。「介護保険法指定基準による禁止の対象となる具体的な行為」の熟知が十分ではない。	○	「禁止の対象となる具体的な行為」と、日常のケアを振り返っての照合を繰り返す事を通して、全職員が自己点検するシステムを作っていく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	可能な限り一人ひとりの外出の癖を掌握し、さりげない声掛けで対応しているがチャイムに頼ってしまう事もある。近所の駆け込みステーションや近隣にも連絡してもらえる関係(緊急連絡網)を築いている。	○	今日、入居者はどう過ごしたいのか、本人の思いを読み取り、察知し、見守りや職員間の連携プレーを強化していく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はチームでの声の掛け合いをして常に誰かの「目」が見守り、すぐに対応できる位置関係を確保している。又、夜間も時間毎の入居者の状況に合わせ、わずかな動きもキャッチできるよう居場所を工夫している。		左記の徹底
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	台所の包丁、ハサミは使用毎に定位置に収め、救急箱、消毒薬類は保管場所を定め、入居者の状況に照合しながら管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	誤嚥や転落(倒)、離苑のリスクを予測し、対策について職員間で共有している。又、職員間の共通意識を図るためにヒヤリハットを躊躇無く記録するようにしているが、十分な対策に至っていない。	○	ヒヤリハットや事故が発生した場合、速やかに事故原因を追究し、再発防止に徹するため、当日の勤務員間での暫定対策について検討する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	昨年に続き、消防署の出張を得て救命救急の、技術演練を受講し、少しずつ自信をつけ始めている。	○	マニュアルの見直し、整備の充実、年1回以上は計画していく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の内の1回は地元の消防署、消防団、及び緊急時における連絡網として協力を得ている(消防計画中に明示)地域住民にも協力をお願いしての訓練を実施してはいるが、効果的訓練の「想定」に苦慮している。	○	訓練や地元との協力、備品等の準備を行っていても、夜勤帯の対応にご家族の不安は払拭仕切れない。抜本的対策を検討していく
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりに起こり得るリスクと、その人らしい暮らしとのギャップとの関係についてご家族と定期的に話し合いながら対応法を取り決めている。		左記の徹底
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	「いつもと変わらない」事の確認をリーダーはじめスタッフ全員が把握し、「異常」の早期発見と早期対応(相談、受診)につなげている。		左記の行動パターン化の徹底。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効用と副作用及び、一人ひとりの服用法について全職員は承知しており、わずかな体調の変化をバイタルチェックにつなげている。		左記の徹底
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	下剤使用への依頼度が強く排便コントロールが十分でない。	○	朝食後にトイレに座る、ゆっくりと落ち着いて座る、規則正しい排便習慣と適度な運動等、自然排便を目指す、基本的な事の実践をしっかりとやっていく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	喫食前の含嗽と食直後の歯磨きは習慣化できた。口腔ケアの重要性を理解し、ホーム内や八代部会での研修に参加している。協力医の協力を得て予防的検診を重視し、その人に合ったグッズも積極的に利用している。	○	口腔ケア時の安定した椅子や鏡、用具の清潔な管理を徹底していく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士作成の献立を基礎とした食事作り。食事量は把握しているが入居者全員の水分摂取量は記録していない。	○	一人ひとりの湯のみ1杯分の量を換算した大まかな1日の水分摂取量を把握記録していく。最後まで美味しく食べられる為の基礎的な事を全職員が学習し、知識を高める為研修を計画中。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	嗽と手洗いの励行徹底を入居者、職員共に心がけ実践している。例年入居者と全職員はインフルエンザ予防接種を受けている。		左記の徹底による予防の徹底。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は1日分ずつ、毎日買い物し、冷蔵庫内もスッキリさせ、残り物は翌日までに処分する。包丁やまな板は夜勤帯で殺菌、漂白する等取り決め(業務)している。	○	冷蔵庫内の開閉や料理時間など温度管理など衛生管理の徹底。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にいつでもくつろげる2~3人腰掛のベンチやテーブルを設置し、歌を歌ったり、お茶したりしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関から廊下、食堂、居間、台所がワンフロアの作りとなっていてホームの全体像が見やすく、食事作り時の美味しい匂いがしたり安心感が得られる。		左記の継続徹底
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの居場所として、又生活感としては工夫と配慮に欠ける面もある。フロア一角の和室に一人ひとり思いのまま寝転んだり、足を投げ出したりと思い思いに過ごされている。		継続

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	防災としてのカーテン等への配慮はあるが、入居者個々の 馴染みの品は意向を説明しても、ご家族様が持ち込まれる 事にはつながっていかない。	○	地道な説明の繰り返しと職員による工夫の徹底。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	居室、フロアー、全室は常に換気扇はONとし、トイレ(ポータ ブル)は消臭剤の使用で臭いには配慮している。入居者の状 況にあわせて調整するようにしている。	○	左記の徹底
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	ホーム内全周にわたる、手すり、広々とした浴室の手すりは 一人ひとりの日常生活動作訓練や立位訓練として役立って いる。		左記の徹底
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	トイレの「便が出たら流さずに教えてください」表示で、今まで つかめなかった排便状況を把握する事が容易となって体調 管理しやすくなった。		徹底
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	毎週日曜日は緑、土、に触れる日として定め、隣接の畑に出 かけ、併せて収穫の喜び、楽しみも味わっている。		継続

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

1. 健康管理
  - (1) 口腔保清と食前の含嗽・健口体操・食後の口腔ケアの徹底誤嚥防止
  - (2) 排便コントロール、水分チェック、献立の工夫、トイレでの排泄の習慣徹底
  - (3) 日常生活動作の充実、生活リハビリと手足の屈伸、下肢UPの習慣(個人個人に応じた取り組み)
  - (4) 保健衛生及び救命処置の知識、技術UPと医療機関との連携、異常時の報告及び緊急対応、医療機関との何時でも相談できる体制作り
2. 家族及び地域との交流、連携の強化
 

職員は入居